



夜

の海岸には昼とは全く違う世界が広がっているのを知っていますか？風景も生き物も、いろんな一面を持っていて驚きの連続です。

ほんのひとときだけ見えた 天の川

太平洋に面した白糠町は夏、海で発生した濃い霧が毎日のように立ち込めています。夜の方が霧は濃いことが多く、満点の星空は、めったに見ることができません。しかし、霧の濃さは刻一刻と変化しています。

ある日、夜の海岸を歩いているときのこと。みるみるうちに霧が消えていき、満点の星空が広がりました。しかも、天の川まではっきりと。右奥には庶路の街明かりが写っています。白糠に移住して丸2年、初めて見た光景です。また霧に覆われてしまう前にと、急いで撮影したのが1枚目の写真です。案の定、数分後にはあたりはまた濃い霧に包まれました。さっきまでの光景がうそだったかのよう。



白糠では珍しい天の川



トガリネズミラヴァー 六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 4

「恋問海岸の夜」

生態系を支える小さな命



打ち上がった海藻を食べるハマダンゴムシ

海岸に暮らす生き物の中にも、夜にしか見られないものがあります。いや、夜は嫌というほどいると言った方が正しいかもしれません。それがハマダンゴムシやハマトビムシです。波打ち際で打ち上がった海藻を2匹並んで食べているのがハマダンゴムシ、右下に写っているのがハマトビムシです。実際には足の踏み場もないほど、おびただしい数

PROFILE 六田晴洋

ろくたはるひろ 1986年生まれ。2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
E-mail rokuta@six-h.com

がいます。これほどの数のハマダンゴムシたち、日中は砂の中に隠れています。日が暮れるとモゾモゾと出てくるのです。虫嫌いの人は、この現実を知ると恋問海岸に行けなくなってしまうのではないかと少々心配ですが・・・でもこうした小さな生き物たちはとても大きな役割を担っています。ハマダンゴムシを食べるハマトビムシはトガリネズミの大好物です。こういう生き物がおかげで、人々に人気がある鳥や動物も生きています。この世界には「いなくもいい命」は存在しません。全ての命が絶妙なバランスを保つことで歯車が回り、成り立っているのです。それに、よく見たらかわいいでしょ？